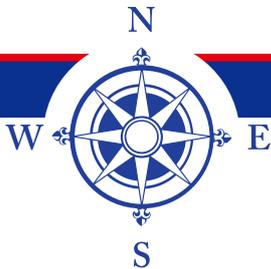
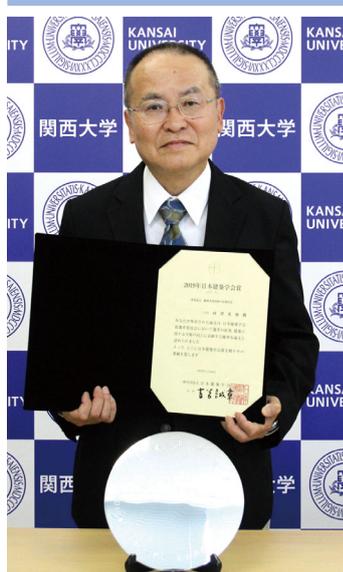


# KANDAI NEWS

■ 関大ニュース



## 環境都市工学部の西澤英和教授が、日本建築学会賞を受賞 木造建築の耐震工法に新たな視点をもたらす



環境都市工学部の西澤英和教授が、2019年日本建築学会賞(論文)を受賞し、5月30日東京・港区の建築会館ホールで授賞式が行われた。本賞は、建築に関する学術の発展向上に寄与する優れた論文に授与されるもの。西澤教授には2012年度にも「旧日本銀行岡山支店の再生・活用に至る一連の活動」で日本建築学会賞(業績)が授与されており、今回が2度目の受賞となる。

西澤教授は、論文「耐震木造技術の近現代史」で、木造建築の耐震工法において、現代木造建築が伝統木造建築から学ぶべき事項を分析。木造の耐震技術の発展に大きな示唆を与えるとともに近代建築史に新しい視点を開き、建築学全体に多大な影響を与えたことが高く評され、今回の受賞に至った。

## データサイエンティスト育成プログラムを新設 AIを使いこなすスペシャリストを創出する

関西大学システム理工学部では、正規教育課程の一環として、本格的なAI人材を創出する「データサイエンティスト育成プログラム」を2020年度4月から開始する。

本プログラムは、企業と連携しながら、大学のデータサイエンス教育に柔軟に取り組むことのできる教育システム。まず電気電子情報工学科で導入し、20人程度の人材輩出を目指す。対象学科は順次拡大していく予定。

学生は1年次でデータサイエンティストに必要なコンピューター科学の基礎や実装のためのプログラミング技術、データサイエンスの基礎技術を習得。2、3年次でAI・IoTをモノづくりに活用するための応用技術を磨く。4年次にはプロジェクトチームによる技術開発や企業での開発インターシップを通じて、実践的なAI・IoT技術を習得する。

一方で、AI人材の芽を育てる取り組みとして17年から高校生向けデータサイエンスセミナーを開講。これまで、武庫川女子大学附属中学校高等学校などの5校でプログラミングコース、ロボット専門コースを開講し、2年間で既に110人の生徒が受講している。大学教育の入門編として高等学校と、実践編として企業と連携したこれらの取り組みは、国内初の試みとして注目されている。

## 日本学生陸上競技個人選手権大会の男子100mで 坂井隆一郎さんが優勝!



6月7日～9日、神奈川県・Shonan BMWスタジアム平塚で開催された2019日本学生陸上競技個人選手権大会の男子100mにおいて、体育会陸上競技部の坂井隆一郎さん(人4)が優勝に輝いた。坂井さんは準決勝で自己ベストを更新し、日本学生歴代7位となる10秒12をマーク。決勝では2位と0.01秒差の大接戦を制して表彰台の中央に立ち「自分の走りができたかと思っていた。緊張より楽しさの方がありました」と声を弾ませた。

(写真提供: 関大スポーツ編集局)

## 体育会拳法部が全国大学選抜選手権大会で 女子団体準優勝、男子団体3位入賞



写真提供: 関大スポーツ編集局

6月16日、東京武道館にて開催された日本拳法第32回全国大学選抜選手権大会において、体育会拳法部が女子の部で団体準優勝、男子の部で団体3位入賞の好成績を収めた。

また、技能賞に岡本敦美さん(文4)、敢闘賞に植田甫空杜さん(法1)が選ばれ、全部員で喜びを分かち合った。

## 体育会ソフトテニス部の中崎・竹田ペアが 西日本学生選手権大会で初優勝!

7月6日～9日に鳥取県のココ・コーラボトラーズジャパンスポーツパークで行われた西日本学生ソフトテニス選手権大会の女子ダブルスの部において、体育会ソフトテニス部の中崎萌さん(文4)・竹田真樹さん(社1)ペアが初優勝を果たした。ソフトテニス部が同大会女子の部で優勝するのは、2015年以来の快挙。



西日本学生選手権大会女子の部で優勝した中崎萌さん(右)と竹田真樹さん(写真提供: 関大スポーツ編集局)

中崎さんは「優勝を目標にはしていたが、目の前のことだけを考えていたら優勝することができた」、竹田さんは「優勝できるとは思っていなかったのがうれしい」と、笑顔で語った。